



# シンガポール、インドネシアのアニメーション

ANIME-ASEAN日本ツアー  
<http://newdeer.net/anime-asean>



来日!  
タン・ウェイ・キョン  
カピー・イーパック  
リスキー・ラズアルディ

## シンガポール

上映 = 残酷なまでに率直——シンガポールの新しい風  
講演 = シンガポール・アニメーションの今  
講師：タン・ウェイ・キョン、カピー・イーパック

## インドネシア

上映 = マージナル・シーケンス  
——ゴット・プラコサと現代インドネシア・アニメーション  
講演 = 中心なき周縁  
——インドネシア現代の映像におけるアニメーション実践  
講師：リスキー・ラズアルディ

## 東京

5/6 金 イメージフォーラム・シネマテーク [3F「寺山修司」]  
シンガポール 16:00 インドネシア 19:00  
イメージフォーラム・フェスティバル2016内での開催

## 山口

5/8 日 山口情報芸術センター スタジオC  
シンガポール 13:00 インドネシア 15:30

## 札幌

5/15 日 北海道教育大学アーツ&スポーツ文化  
複合施設 Hue Universal Gallery  
シンガポール 13:00

新千歳空港国際アニメーション映画祭との共催  
プログラム「アニメーション・トラベラーズ」での開催

## 長野

5/29 日 SHINKOJIホール  
シンガポール 15:00  
12:00-19:00 同会場にて滞在制作の成果発表展示あり

主催：ANIME-ASEAN (クー、コースサッチ、ニューディアー) 助成：国際交流基金アジアセンター  
共催：新千歳空港国際アニメーション映画祭 (札幌)、門前おもてなし実行委員会、長野県信濃美術館 (長野) 協力：イメージフォーラム・フェスティバル、山口情報芸術センター、新千歳空港国際アニメーション映画祭、北海道教育大学岩見沢校



ANIME-ASEANは、日本とASEAN諸国を中心としたアジア各国のインディペンデント・アニメーション作家たちの交流プログラムです。アジアの作家たちを日本へと招聘することで、あまり知られていないASEAN諸国のアニメーションの歴史と現状を紹介、また、日本作家をアジアへと派遣することで日本のインディペンデントの最新動向を国際的に共有することを通じ、現地のインディペンデント・シーンの活性化を図ります。ANIME-ASEAN 1年目の今年は、シンガポールとインドネシアにフォーカス。2国のアニメーションの歴史と今を発掘・紹介します。

## シンガポール

日本ではいまだに全貌が見えない東南アジアのインディペンデント・アニメーションを紹介する特別プログラム。その第一弾として、シンガポールの今後を担う若い才能2名を招聘、講演付きで、近年の秀作を一望します。

上映=

### 残酷なまでに率直——シンガポールの新しい風 (50分)

プログラム選定：タン・ウェイ・キョン&土居伸彰(ニューディアー)

ピフスキ (タン・ウェイ・キョン、2014年、シンガポール、4分25秒)  
 グレート・エスケープ (タン・ウェイ・キョン、2015年、シンガポール、6分142B号棟の虎 (ヘンリー&ハリ・チュワン、2015年、シンガポール、11分7秒)  
 最後の一滴 (シュリニバス・バクタ、2000年、シンガポール、6分26秒)  
 孤独の5つの影 (アン・チン・シオン、2015年、シンガポール、9分2秒)  
 世界の見方 (ジェロルド・チョン、2015年、シンガポール、4分33秒)  
 ダウンタウン (カビー・イーバック、2013年、シンガポール、1分32秒)  
 オブセッション (カビー・イーバック、2013年、シンガポール、1分58秒)  
 スリー・ザ・ビーフッド (カビー・イーバック、2015年、シンガポール、4分10秒)

講演=

### シンガポール・アニメーションの今

講師

タン・ウェイ・キョン Tan Wei Keong

シンガポールとサンフランシスコを拠点とするアニメーション・アーティスト。複数のメディアをミックスさせた作風に定評がある。『Pifuskin』はザグレブやシュトゥットガルトなど主要なアニメーション映画祭にコンペイン、一気に頭角を現すと、最新作『グレート・エスケープ』もアヌシー国際アニメーション映画祭で受賞。現代シンガポールを代表する若手作家として認知されつつある。



カビー・イーバック Kapie Eipak

ベトナム出身、シンガポール在住のアニメーション作家。男性器ジョークによって個人的な物語と社会的なメッセージの両方を伝える。アニメーション、グラフィック・デザイン、イラストレーションと活動は幅広い。南洋工科大学の卒業制作『スリー・ザ・ビーフッド』がGLASアニメーション映画祭でスペシャルメンションを獲得するなど、国際的な評価も高い。



## インドネシア

知られざる巨匠ゴット・プラコサの成果と現代インドネシアの若き才能を、プラコサの残したキーワード「周縁」をテーマに一挙に紹介。講演では、プラコサ作品のアーカイヴィングも手掛けるアーティストが、現在のインドネシアの映像実践の実情を伝える。

上映=

### マージナル・シークエンス——ゴット・プラコサと現代インドネシア・アニメーション (50分)

プログラム選定：リスキー・ラズアルディ

絶対的な禪 (ゴット・プラコサ、1983年、インドネシア、9分30秒)  
 Non KB (ゴット・プラコサ、1978年、インドネシア、2分)  
 自画像 (ゴット・プラコサ、1982年、インドネシア、3分)  
 プガワン・チプトニ (ゴット・プラコサ、1976-2008年、インドネシア、5分2秒)  
 クビス (フィリップ・グラスのために) (ゴット・プラコサ、1978年、インドネシア、3分36秒)  
 煙突のように (エコ・ヌグロホ、2002年、インドネシア、2分1秒)  
 ボーダーレス (トロマラマ、2010年、インドネシア、2分25秒)  
 アンロック (ウーラン・スーヌー、2012年、インドネシア、5分19秒)  
 プレット (ファーマン・ウィダイヤズマラ、2014年、インドネシア、3分44秒)  
 Pandai Besi "Hujan Janapn Marah" (ナスターシャ・アビガリ、2016年、インドネシア、3分50秒)  
 選ばれた世代 (アリエール・ビクター、2016年、インドネシア、3分42秒)  
 Iqra (アリ・サトリア・ダルマ、2005年、インドネシア、2分16秒)

講演=

### 中心なき周縁——インドネシア現代の映像におけるアニメーション実践

講師

リスキー・ラズアルディ

ジャカルタで活動するビジュアル・アーティスト兼インディペンデント・キュレーター。映像の分野で主に活動をしている。2009年、ベルリン映画祭のタレント・キャンパスのフェロシップに選ばれる。彼の映像作品は、ロッテルダム映画祭、山形国際ドキュメンタリー映画祭などで上映されている。映画のラボラトリー活動も行う芸術家集団ラボ・ラバ・ラバのメンバーでもある。



2016

## 5/6 金 東京

イメージフォーラム・シネマテーク [3F「寺山修司」]

渋谷区渋谷2-10-2

当日一回券：600円

<http://imageforumfestival.com/2016/>

## 5/8 日 山口

山口情報芸術センター スタジオC

山口市中園町7-7

一般：1300円 any会員/25歳以下/特別割引：800円

<http://www.ycam.jp/cinema/2016/anime-asean-japan-tour/>

## 5/15 日 札幌

北海道教育大学アーツ&スポーツ文化複合施設 Hue Universal Gallery

札幌市中央区北1条東2丁目4番地 札幌軟石蔵

入場無料

<http://airport-anifes.jp/eventws/>

## 5/29 日 長野

SHINKOJIホール

長野市東町142-2 SHINKOJI北棟1F(新小路カフェ内)

入場無料

長野会場についてのお問い合わせは、長野県信濃美術館まで

Tel 026-232-0052 Fax 026-232-0050

<http://www.npsam.com>



タン・ウェイ・キョン、カビー・イーバックによる「旅」をテーマにしたワークショップ・滞在制作も随時開催。札幌でのワークショップ「アニメーション・トラベラーズ」は特設サイト (<http://airport-anifes.jp/eventws/>) を、長野でのワークショップは「ANIME-ASEAN」および長野県信濃美術館公式ホームページにて詳細を発表。